

## ショーソン／交響曲 変ロ長調 Op.20

エルネスト・ショーソン (1855-1899) はフランスの後期ロマン派に位置する作曲家で、抒情味と芳醇さに満ちた歌曲で知られている。オーケストラ音楽ではヴァイオリンとオーケストラのための《詩曲》が有名。家族の勧めで当初、法学を学んだ彼は、そもそも音楽院へ進んだのが遅く、さらに 44 歳という年齢で自転車事故により早世する。創作の期間が短く、亡くなった時、2つめの交響曲のスケッチを書き始めたばかりだった。1890 年に完成されたこの交響曲は音楽院の師だったセザール・フランクの影響を指摘されてきた。3 楽章構成で循環主題を用いていること、さらに冒頭楽章の導入部においてその循環主題を提示する手法など、3 年前に作曲された師の交響曲と類似する部分は少なくない。しかし、初めての交響曲には色彩的なオーケストレーションなど、師とは異なる個性も息づいている。第 1 楽章は導入部に続いて、アレグロ・ヴィーヴォの主部となる。ソナタ形式でホルンとファゴットによる軽やかな第 1 主題、嬰へ長調で始まり、チェロの表情たっぷりのメロディとなる第 2 主題で展開される。苦悩に満ちた楽想で始まる第 2 楽章トレ・ランは 3 部形式の緩徐楽章。2 つの主要動機で構成される主部と、イングリッシュ・ホルンと独奏チェロがユニゾンで奏でる中間部からなる。第 3 楽章は弦合奏の快活な分散和音、トランペットと木管楽器による旋律で高揚する短い導入部で始まる。トレザニメと記された主部はソナタ形式。不穏な響きの第 1 主題とコラル風風の第 2 主題が展開される。最後に循環主題が再現され、静かに、内省的に終わる。

白石美雪

### 楽器編成

ピッコロ、フルート 2、オーボエ 2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット 2、バス・クラリネット、ファゴット 3、ホルン 4、トランペット 4、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、ハープ 2、弦五部

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。